

2024年度第一次教育学研究科 入学試験問題(直接解答)			
博士課程前期課程	乳幼児教育研究領域	試験科目 専門科目	受験番号 番

解答記入不可

↑

問題 1

児童文化財としての「おはなし」の成り立ちと意義について、わが国での展開過程をふまえて論ぜよ。

3枚中

1

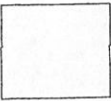
2024年度第一次教育学研究科 入学試験問題(直接解答)

博士課程前期課程	乳幼児教育研究領域	試験科目 専門科目	受験番号 番
----------	-----------	--------------	-----------

解答記入不可

↑

問題2. 「こども未来戦略方針」(令和5年6月13日閣議決定)では、「加速化プラン」の具体的な施策の一つに「幼児教育・保育の質の向上 ～75年ぶりの配置基準改善と更なる処遇改善～」が示された。ここでは具体的に職員配置基準と保育士等の更なる処遇改善が述べられている。配置基準改善とは、何がどのように改善されるのかを説明せよ。また、その改善が保育の質の向上にどのように寄与するのかについて論ぜよ。



3枚中

2

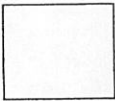
2024年度第一次教育学研究科 入学試験問題(直接解答)			
博士課程前期課程	乳幼児教育研究領域	試験科目 専門科目	受験番号 番

解答記入不可

↑

問題3

乳幼児期における「移行対象」について説明し、発達の意義について論ぜよ。



3枚中

3

2024 年度 第一次 教育学研究科入学試験問題

博士課程前期課程／乳幼児教育研究領域／専門科目（解答例）

解答例

[問題 1]

- ①お話の歴史は古く、親から子へ、祖父母から孫へと語られてきました。「おはなし」が子どものための特殊なジャンルとして成立し始めたのは明治期であるといわれています。
- ②「おはなし」はその時代や話す方法によって、口演童話、実演童話、素話、ストーリーテリングと呼ばれたりしますが、子どもと本を結びつけるための手立ての一つとしてとらえることができます。
- ③とりわけ保育の場や、家庭、図書館や子ども文庫等で実践されている「おはなし」は、子どもとおとなの楽しい時間の共有をもたらす児童文化財と言えるでしょう。
- ④日本では明治期にアメリカのストーリーテリングが紹介されましたが、現在のように広く世に知られるようになったのは、1960 年代にアメリカの児童図書館で学んだ人たちが帰国後、読書活動として展開したことが契機です。
- ⑤「おはなし」の意義として、子どもの創造力や情操を養い、子どもに精神的な満足感を与えること、静かに「おはなし」を聞くことで集中力や思考力が育つこと、話し手と聞き手の温かな雰囲気の中で生まれる信頼関係や絆の深まり、くりかえし「おはなし」を聞くことで語彙が増え、言葉の楽しさや美しさに気づけることなどがあげられます。

[問題2] 解答例と採点配分

保育士の配置基準「75年ぶりの改善」と言ったのに…実際は配置増やした施設への加算のみ：東京新聞TOKYO Web

(tokyo-np.co.jp)

年	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳
1948	10人			30人		
62						
64	8人		9人			
65						
67						
69						
98	3人	6人		20人		

(60点)

- ・ (10点) 保育士の配置基準の改善
- ・ (15点) 1歳が現行の子ども6人に保育士1名から、子ども5人に保育士1名に改善
- ・ (15点) 4歳以上が現行の子ども30人に保育士1名から、子ども25人に保育士1名に改善
- ・ (10点) 75年ぶりの改善とは、4歳児の保育士配置基準が1948年（保育所創設）以来、変更されていなかったため今回改善されれば、75年ぶりの改善になる。
- ・ (10点) ただし、法改正はされず運営費の増額で対応予定。

(40点)

- ・ ひとりの保育士が対応する子どもの数が少なくなることにより、ひとりひとりの子どもに丁寧に関わることが可能になる。特に1歳児は、歩行の完成、自食の獲得、排泄の自立、言葉の獲得、他児との関係の広がり、多様な道具（スプーン、筆記用具）の使用が見られる時期であり、かつ発達の個人差が大きい時期である。一人の保育士が対応する子どもの数が少なくなることにより、個別的、応答的な対応が可能となる。
- ・ ひとりの保育士が対応する子どもの数が少なくなることにより、他の業務（連絡帳、児童原簿の記述等の事務業務、保育活動の準備等含め）においての負担軽減も期待でき、保育士が勤務時間内に余裕が生じることにより、より本来の保育活動に労力をあてることができ

[問題 3] 解答例(採点のポイント)

(1) 基本的理解 (定義の正確さ)

- ・ウィニコット (Winnicott, 1953) の概念として「移行対象」を正しく説明できているか。
- ・移行対象が「毛布やぬいぐるみなど、母親 (養育者) とは別の、安心感を与える物」であることを押さえているか。

(2) 概念の位置づけ

- ・移行対象が、乳幼児の自己と対象との間にある中間的存在 (subjective object) であることを理解しているか。
- ・想像の世界と現実世界をつなぐ「移行現象」の一部であることに触れられているか。

(3) 発達の意義の説明

- ・分離不安や母子関係の葛藤を和らげる役割に言及しているか。
- ・自己と他者の境界形成に関与することを説明しているか。
- ・現実検討能力の発達や「安心感」「情緒的安定」に寄与することを述べているか。
- ・後の象徴機能や遊び・創造性の発達につながる意義に触れているか。

(4) 論述の展開

- ・「説明」と「意義」の両方がバランスよく記述されているか。
- ・発達心理学的な用語や理論 (例: 愛着理論との関連、対象関係論) を適切に用いているか。

(5) 具体例・応用

- ・実際の子どもの行動例 (毛布を抱く、ぬいぐるみを持ち歩くなど) を挙げて説明しているか。
- ・現代の育児・保育との関連 (例えば「安心毛布 (security blanket)」の文化的知名度) に言及しているか。

(6) 論理性・表現

- ・論述が論理的に展開されているか。
- ・誤解や不正確な説明 (例: 単なるお気に入りの物と混同するなど) がないか。

2024 年度 第一次 教育学研究科入学試験問題

博士課程前期課程／乳幼児教育研究領域／専門科目（出題意図）

出題意図

[問題 1]

「おはなし」は、さまざまな場で実践されていますが、特に保育の場で「おはなし」をする実践では、保育者の力量が問われます。子どもたちと向き合う、子どもたちの目を見て語りかける、直に子どもと触れ合うことで、保育者と子どもの間に欄退官や信頼感も生まれます。子どもの様子を見ながら臨機応変に対応しつつ語る技術も必要ですし、自ら「おはなし」を選びレパートリーを増やしていく努力も必要となります。保育者の声を通して子どもたちの情操が磨かれ、「おはなし」を一緒に楽しんだり共感したりする体験が、子どもたちの言葉と心を豊かに育てていることの重要性を理解してほしい。幼児教育を学ぶ上でぜひ知っておいてほしい児童文化財です。

[問題 2]

・本問題は、保育所・保育士政策の時事問題である。保育学の基礎知識を踏まえて、保育所・保育士に関わる政策動向にも関心を持ち、子どもの発達や乳幼児教育への政策の影響と課題を考察し論じる力を捉える。

[問題 3]

本設問は、ウィニコットによる「移行対象」概念の理解を通じて、乳幼児期における自己と他者との関係の発達過程を理論的に説明する力を評価するものである。単なる定義にとどまらず、移行対象が情緒的安定・象徴機能・社会性の発達にどのような意義をもつかを批判的に論じることで、発達理論の知識を具体的事例と結びつけて論述する能力を問うことを目的とする。